

もりもり通信

森林保全へ64地銀集結

「日本の森を守る京都サミット」

平成21年12月「日本の森を守る京都サミット」を地方銀行64行全てが参加し、京都議定書採択地である京都で開催しました。地方銀行が一つになった一日をドキュメンタリー風にお伝えします。

全体会議

次世代へ美しい健全な自然を引き継ごう



共同宣言を発表するために壇上に登られた頭取の方々。

共同宣言

平成20年7月16日に発足した私たち「日本の森を守る地方銀行有志の会」は、平成21年4月より本格的な活動を開始し、本日世界文化遺産(ただす)の森において記念植樹を行ったのち、京都議定書が締結された国立京都国際会館に集い、以下の課題について議論を行いました。そして今後の本会の活動において引続き各課題について深く研究、情報交換を行っていくことを確認しました。

1. 「森林保全活動を中心としたネットワーク化」

環境保全の意識が高まるなか、私たち全国の地方銀行の森づくり活動をネットワーク化し日本の森を守る活動を支援していくと共に、地域のリーダーとして各地域における行政、NPO法人、ボランティア団体の活動等との連携を図ることにより、広がりのある森を守る活動の実現を目指します。

2. 「林業・木材産業再生等を中心とした地域の活性化」

地元の森林が荒廃しつつあるなか、森林資源を循環させていくため、私たち地方銀行が地域の林業・木材産業再生に向けて森林所有者・森林組合・木材を活かす企業等と相互に協力し、木材利用の促進など地域の活性化に繋げるための取組みを行います。

私たち地方銀行は、こうした課題を共有する中、各地域の特性に応じた課題解決のための活動をそれぞれの地元において展開すると共に、その諸活動を本会のネットワークを通じて全国に広げ、日本の森を守り、そして更に育てていくことを目指します。

3. 「環境にやさしい金融商品づくり」

各地域の特性を活かした第一次産業の再生、環境関連ビジネスの育成及び地域の皆さまへの環境意識の醸成などのため地方銀行として環境にやさしい金融商品づくりを促進します。

4. 「次世代へ引き継ぐ緑化活動」

地方都市においても地球温暖化やオゾン層の破壊などの環境問題への取組みが求められており、温暖化防止、水質保全、生物多様性保全、災害予防など「緑」が有する多面的機能について啓発に努めると共に、緑化活動の推進を行います。

記念植樹

世界文化遺産
糺の森

森林保全の決意を込めて



世界文化遺産の「糺の森」で記念植樹をする古瀬頭取(右から4番目)。

社団法人全国地方銀行協会に加盟する64行全てが参加した「日本の森を守る京都サミット」は、平成21年12月4日に京都市左京区で開催された。

「日本の森を守る地方銀行有志の会」(会長・柏原康夫京都銀行頭取、副会長・古瀬誠山陰合同銀行頭取)が中心となり、世界文化遺産下鴨神社・糺(ただす)の森で記念植樹が行われた後、国立京都国際会館で分科会、脚本家・演出家の倉本聰氏による記念講演会、全体会議が開かれ、地方銀行が果たす森林保全への取り組み等に関する議論が交わされた。

さらに、地方銀行がリーダーとなって全国へ活動を広げる決意をまとめた共同宣言が採択され、宣言書が環境省と農林水産省へ渡された。

日本の森を守る 地方銀行有志の会とは・・・

森づくりに関する地方銀行の情報やノウハウを共有し、各々の活動に反映させ、森づくり活動のさらなる活性化につなげていくために、平成20年7月に発足しました。会長行を京都銀行、副会長行を当行が務め、地域、地域の銀行が川下から活動の裾野を広げてまいります。

64行の思いを形に

シンボル
マーク
発表



会議の最後にシンボルマークが発表された。



日本の森を守る
地方銀行有志の会
SAVE THE FOREST IN JAPAN

日本の森を守る地方銀行有志の会 ロゴデザインについて

さまざまな特色と強みを持った地方銀行64行が「日本の森を守る」という一つの理念に集いネットワークを構築するさまを、64枚の葉っぱが幹に生い茂り一本の木を作り上げるさまをビジュアルで表現しています。ロゴマークに使用される多彩な色は、各地方銀行の地域に根ざした個性を表すとともに、森に棲む多様な動植物を想起させ、日本の豊かな森と水資源を守ってほしいという、有志の会の想いを伝えるものです。

オープニング
セレモニー

今こそ、みんなの手をたずさえて取り組む。



式典の挨拶をされる柏原会長(中央)。

サミットに先立ち、地銀各銀行の代表者は、下鴨神社境内の直会殿(なおいでん)に集合し、柏原会長は「糺の森で育つ木々は古代から貴重な財産として守られてきました。ここで植樹をすることは、これからもずっと地元の森林を守る決意が受け継がれることにつながる」と述べた。

引き続き、下鴨神社の新木直人宮司が「歴代の宮司は子供を育てるように木を育ててきました。さらに、室町時代の戦乱や昭和の室戸台風など、過去に森が荒れたことがあっても、その度に市民と一緒に復興してきた」と、糺の森の管理者の立場で森林保全の活動を紹介し、社団法人国土緑化推進機構の谷福丸副理事長も、緑の募金活動に触れながら、地方銀行の試みに期待する挨拶をした。

森を守るため地方銀行がリーダーシップを。



地銀のリーダーシップについて述べられる柏原会長と来賓の皆様。

柏原会長の開会挨拶で始まった国立京都国際会館でのオープニングセレモニー。約600人の出席者を前に、柏原会長は、公共性の高い森林保全活動の意義について解説。「世界の森林保有率の平均が約30%に対し、日本は約70%を占めている。先進国の中ではトップレベルだ。昔から多くの恵みを与えてくれた森だが、現在ではいろいろな問題を抱えている。この問題解決のためには、それぞれがバラバラに活動するのではなく、みんなが手をたずさえて取り組む必要がある。木材だけでなく、生物に欠かせない空気や水をつくる森を何とか守り通すため、そして地銀が地域のリーダーとして役割を果たすためにも、このサミットを意義ある会議にしたい」と述べた。

引き続き、来賓として、社団法人全国地方銀行協会の福田誠副会長・専務理事が挨拶に立ち、世界でも際立った森林保有率を誇る日本で、森林保全を公共的な活動としてとらえる意義について、賛同する意見を述べた。

5つのテーマを協議

分科会

第1分科会 (参加対象者は会員行代表者)

テーマ
「森林保全活動を中心としたネットワーク化」

担当教授 元名古屋大学農学部教授
只木 良也氏



地域住民を巻き込んだ森林づくりが協議された。

まとめ

環境保全の意識が高まり、全国の地方銀行の森づくり活動をネットワークしていくことが、日本の森を守る活動を積極的に支援することになる。それとともに、地方銀行が地域のリーダーとして各地域の行政・NPO・ボランティア団体・市民運動との連携を図ることによってより広がりのある森を守る活動の実現をめざして行きたい。

出席者(銀行名)

みちのく 東北 秋田 千葉 北国 百五
泉州 紀陽 山陰合同 福岡 十八 親和
肥後

第2分科会 (参加対象者は会員行代表者)

テーマ
「林業・木材産業再生等を
中心とした地域の活性化」

担当教授 京大大学生存圏研究所所長
循環材料創成分野教授 川井 秀一氏



「地産地消」の重要性について意見が交わされた。

まとめ

地元の森林が荒廃しつつあるなか、森林資源を循環させていくため、私たち地方銀行が地域の林業・木材産業再生に向けて森林所有者・森林組合・木材を活かす企業等と相互に協力し、木材利用の促進など地域の活性化に繋げるための取組みを行っていききたい。

出席者(銀行名)

北海道 青森 岩手 北都 荘内 東邦
足利 山梨中央 京都 南部 広島 山口
四国 筑邦 大分 宮崎

第3分科会 (参加対象者は会員行代表者)

テーマ
「環境にやさしい
金融商品づくり」

担当教授 京都府立大学公共政策学部教授
青山 公三氏



森林に関する金融商品の最新事例が報告された。

まとめ

国内の森林整備の状況、林業の低迷等を踏まえ、川下から川上まで目を向けた新しい金融商品の検討が必要であり、各地域の特性を活かした第一次産業の再生、環境関連ビジネスの育成、及び地域の環境意識の醸成等の為、地方銀行として環境にやさしい金融商品づくりを促進していききたい。

出席者(銀行名)

山形 群馬 武蔵野 千葉興業 東京都民
富山 大垣共立 静岡 清水 三重 近畿大阪
池田 鳥取 中国 西日本シティ 琉球 沖縄

第4分科会 (参加対象者は会員行代表者)

テーマ
「次世代へ引き継ぐ
緑化活動」

担当教授 京都大学大学院地球環境学堂教授
森本 幸裕氏



21世紀の緑化活動の検討がなされた。

まとめ

地方都市においても地球温暖化やオゾン層の破壊などの環境問題への取組みが求められており、温暖化防止、水質保全、生物多様性保全、災害予防など「緑」が有する多面的機能について啓発に努めると共に、緑化活動の推進を行っていききたい。

出席者(銀行名)

七十七 常陽 関東つくば 横浜 第四 北越
八十二 北陸 十六 スルガ 滋賀 但馬
阿波 百十四 伊予 佐賀 鹿児島

第5分科会 (ご来賓、NPO関係者、他一般参加者)

テーマ
「国民参加の森林作り」
(パネルディスカッション)

パネリスト 聖護院門跡 門主

宮城 泰年氏

NPO法人大文字保存会副理事長

長谷川 綉二氏

立教大学特任准教授

見山 謙一郎氏

コーディネーター 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科教授
田中 和博氏



日本の森がこれまで守られてきた理由について語られた。

まとめ

【コーディネーター】

森の活動を、日本から世界に向けて発信できることを期待したいと思うし、その地域経済の要である地方銀行が今回のように森林問題に取り組み始めたということは新しい動きだと感じている。

【宮城門主】

森林というのは非常に長いスパンでものごとを見ていく必要がある。子供、孫、その次代でようやく答えが出てくる。ひとりひとりの命が繋がって、その思いを伝えていくのだという姿勢で取り組んで欲しい。

【長谷川副理事長】

森林、樹木を枯らすことは1日でできるが、1年育てるとするのは大変な苦勞である。企業の中で森林サークルを作って活動を行っている人も増えており、そのような活動が育っていくことを願っている。

【見山准教授】

とにかくまず一歩を踏み出すということが大切だと思っている。手段は何でもいいと思うが、何かしらの関心を持って、自分なりの取り組みに一歩踏み出してみる、そのことから見えてくる世界が必ずあると思う。

記念講演会
脚本家・演出家
倉本聡氏

森は最も大切な水と空気を生み出す源。
未来のために、自分たちが
できることから始めよう。



記念講演の要旨

「シナリオライターと俳優を養成するために開設した「富良野塾」では、わき水を頼りに生活をしていましたが、ある日、農地改良が原因で普段利用していたわき水が枯れる危機にみまわれた。生活上で欠かせない水がいつまでも身近なものとは限らないことに気づいてからは、森、それも木材になる幹よりもずっと、森の木の葉が水を貯える上で大切なことを知った。そこで、人間にとって必需品である水と空気を守るため、近くのゴルフコースを以前の森の姿に戻す事業を

通じて、環境教育事業に取り組み始めた。ドイツでは環境教育が国民に浸透するのに30年かかった、と聞いた。元の森に還すことは、単に植樹をすることではなく、遠大な作業の繰り返しがあって初めて成し遂げられることだ。しかも、この計画が実行、ゴルフコースが森に還った姿を、自分は生きて見ることが出来ないだろう。しかし、水と森を生み出すためには、今すぐ活動をはじめ、少しでも早く問題を解決することが大切だと考えている。」